

X-point

サイボウズ **Office**
連携サービス
導入・設定ガイド

2026/04/08 版



はじめに

◆本書の目的

本書は、X-point と「サイボウズ Office (パッケージ版)」を連携させるための連携モジュール導入手順を説明しています。本書をよくお読み頂いた上で設定作業を行ってください。

！注意事項

本書は「サイボウズ Office」の最新バージョンに沿って作成されています。旧バージョンの設定を行う際は、特に断りが無い限り本文中の記載を適宜置き換え、設定作業を行なって下さい。設定内容・方法が異なる箇所については、本文中に明記されております。

◆対象とする読者

本書は X-point サーバーの導入を行なう技術者を対象としています。
技術者とは X-point の導入を提案する販売店もしくは SI 企業の技術者、X-point を利用する企業の情報管理者などを指します。

◆対応バージョン (2026/04/08 時点で利用可能な「サイボウズ Office」)

X-point	認証方式	対応サイボウズ Office (パッケージ版)
X-point v3.13	オープン統合認証 Ver.2	「X-point Ver.3 系動作環境一覧」をご確認ください。 https://www.atled.jp/document/xpoint/version_xpcloudv3.html

！注意事項

- ※ 「サイボウズ Office 連携サービス」を利用頂く場合、追加ソフトウェアに対する使用許諾に同意して頂く必要があります。
使用許諾書は連携モジュールの sso ディレクトリに含まれる readme.txt をご覧ください。
- ※ 上記バージョン以外のサイボウズ Office では X-point との連携が正常に動作しない場合がございますのでご注意ください。
最新の対応情報につきましては、製品サイト、もしくは販売パートナーまでお問合せください。
- ※ サイボウズ社提供の Office 製品向けクライアント用フリーウェアと X-point の併用に関する動作はサポートしておりません。
- ※ サイボウズ Office の動作環境詳細についてはサイボウズ社の製品サイトにてご確認ください。
- ※ 「cybozu.com」には対応しておりません。本オプションはオンプレミス版サイボウズ・Office 用です。
- ※ サイボウズ Office を利用する際、ブラウザアドレスに https プロトコルを使用する場合、X-point は「セキュリティ基本サービス」の契約が必須になります。
- ※ サイボウズ Office と X-point Cloud が利用するプロトコル (http 又は https) は揃えて使うようにしてください。
- ※ サードパーティーCookie が利用できない場合は本機能のポートレット表示を利用する事はできません。
但し、Chrome/Edge/Firefox ブラウザで Storage Access API が利用できる場合、ブラウザ操作者がコンテンツ使用を許可する事で本機能のポートレットが利用可能になります。許可指定の要否はポートレットを利用する際に行われ、ユーザによる使用許可の設定が必要であると判断された場合にポートレット表示位置に確認画面が表示されます。表示が許可された場合は 30 日以内に再利用する限り継続してポートレットが表示されます。30 日以内の利用が無い場合は再度コンテンツ使用の許可を求める表示が行われます。
なお、ブラウザ側で許可を受け付けない設定が行われている場合は変更できない事を示す表示が行われポートレット表示は行われません、ポートレット表示ができるように設定の変更を行ってください。

【設定項目】 2025/10/06 時点

- Chrome . . . 設定>プライバシーとセキュリティ>サードパーティーCookie
- Edge . . . 設定>Cookie とサイトのアクセス許可>
保存された Cookie とデータ>Cookie とサイトのデータ管理と削除
- Firefox . . . 設定>プライバシーとセキュリティ>強化トラッキング防止機能

◆製品名について

本文中、「X-point サーバー」は「X-point」と表記しています。
また、各製品の名称は対応バージョンを省略してある箇所もありますのでご了承ください。

◆商標について

本書の一部、または全部を著作権所有者の許諾なしに、商用目的の為に複製、配布することはできません。
X-point、エクスポイントの名称およびロゴは株式会社エイトレッドの商標または登録商標です。
Microsoft、MS-DOS、Windows は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
Macintosh、MacOS は Apple Computer, Inc. の米国およびその他の国における登録商標です。Adobe、Acrobat、Adobe Acrobat は Adobe Systems, Inc. の商標または登録商標です。ORACLE、Java、JavaScript は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。サイボウズ、Cybozu はサイボウズ株式会社の登録商標です。

その他、記載された会社名およびロゴ、製品名などは該当する会社の商標または登録商標です。本書では、©、®、(TM) の表示を省略しています。ご了承ください。

◆製作著作

©2026 株式会社エイトレッド

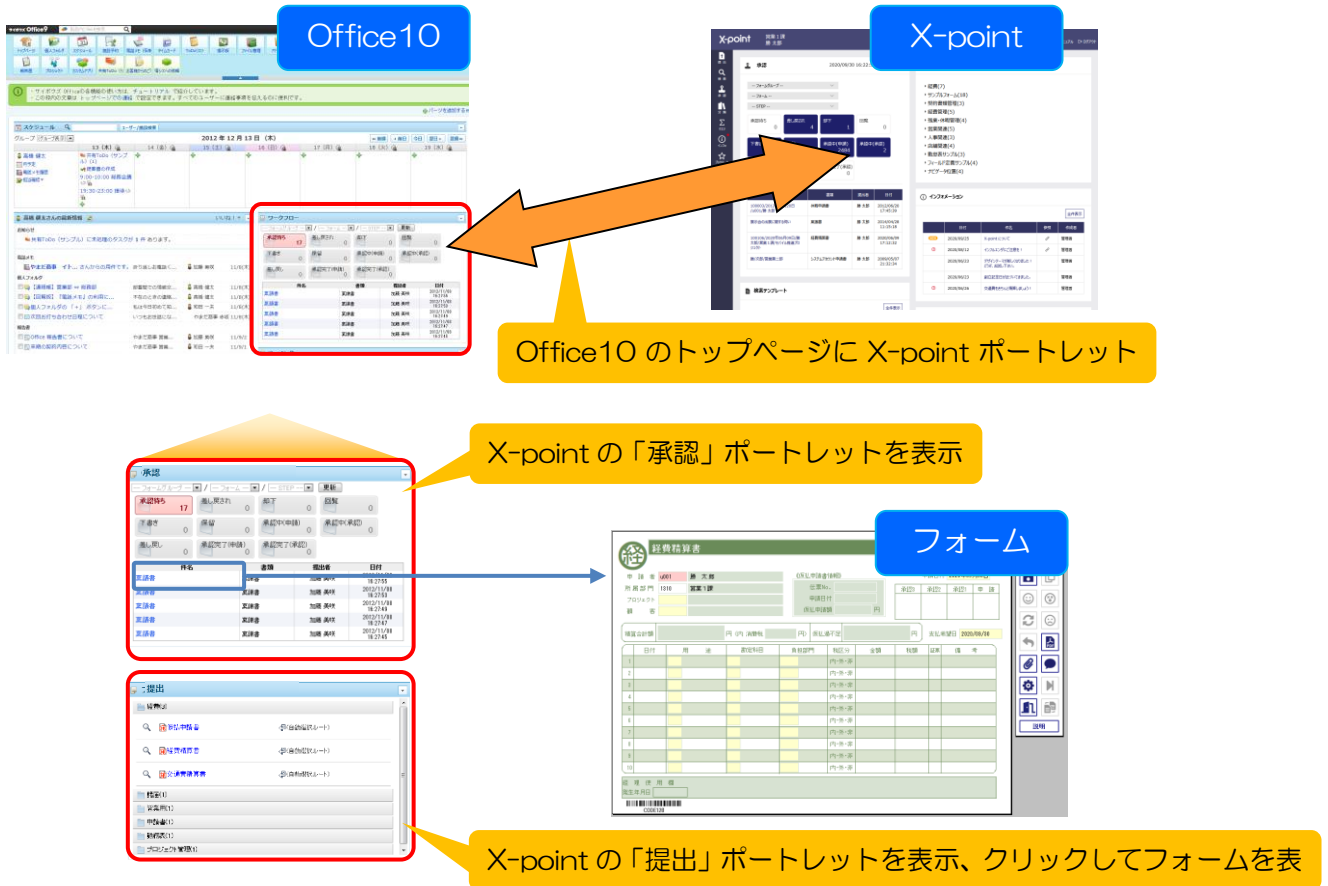
目次／索引

第1章. X-point・サイボウズ Office 連携の概要	5
1.1. どんな機能が実現できるの？.....	5
1.2. Office 連携時の仕様.....	6
1.3. X-point ポートレットについて.....	8
1.3.1. サードパーティーCookie が利用できない場合の動作.....	9
第2章. 導入編 (サイボウズ Office の設定)	10
2.1. 連携モジュール・ファイルを確認する.....	10
2.2. 連携モジュールの配置と設定 (Apache で動作する Office サーバーの設定).....	11
2.3. 連携モジュールの配置と設定 (IIS で動作する Office サーバーの設定).....	13
2.4. 連携設定を行う (Office システム管理画面の設定).....	16
2.5. X-point メニューを追加する.....	17
2.6. X-point ポートレットを追加する.....	18
第3章. 導入編 (X-point の設定)	22
3.1. ライセンス適用.....	22
3.2. サイボウズ連携設定.....	22
第4章. ユーザー情報メンテナンス編	24
4.1. Office からユーザーCSV 書き出しを行う.....	24
4.1.1. CSV 出力用ファイルを配置した場合.....	24
4.1.2. CSV 出力用ファイルを配置していない場合.....	25
4.2. Office からグループ CSV 書き出しを行う.....	26
4.2.1. CSV 出力用ファイルを配置した場合.....	26
4.2.2. CSV 出力用ファイルを配置していない場合.....	27
4.3. X-point ヘユーザーおよびグループ CSV をインポートする.....	28
4.4. インポート時の注意事項.....	29
4.5. CSV ファイル仕様.....	30
4.6. Office と X-point のユーザー情報マッピング.....	31
第5章. 動作確認編	32
5.1. 動作確認チェックリスト.....	32
第6章. Office のアップデート	33
6.1. アップデート前のチェック項目.....	33
6.2. アップデート後の作業.....	33
6.2.1. Office 9.1.0 迄から Office10.0 以降にアップデートする場合.....	33
6.2.2. 連携モジュールを利用する設定で Office 10.0.0 以降をアップデートする場合.....	34
第7章. その他の注意事項	35
7.1. X-point の個人設定.....	35

第1章. X-point・サイボウズ Office連携の概要

1.1. どんな機能が実現できるの？

サイボウズ Office 連携サービスでどのような機能が実現できるか説明します。



シングルサインオン(SSO)

Office と X-point とでシングルサインオン(SSO)が可能となります。Office にログインすると X-point へはログインなしに入る事ができ、パスワードを再度入力する必要がなくなります。

ユーザー情報の同期

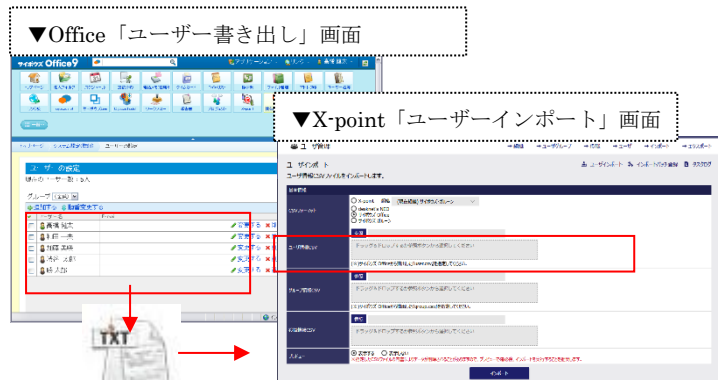
Office から書き出した「グループ」「ユーザ」の CSV ファイルを X-point へインポートできます。

Office トップページへの X-point パーツ表示

X-point の標準機能である「提出」、「検索」、「承認」、「ブックマーク」「グラフ」を Office のトップページに組み込むことが出来ます。

！注意事項

X-point ポートレットは、ドメイン設定のユーザサイトメニュー利用制限の対象外となります。特定のガジェットを非表示にしたい場合は、グループウェア等で個別に制御してください。



1. 2. Office 連携時の仕様

サイボウズ Office 連携時の仕様について説明します。

X-point 側複数ドメインとの連携はできません

Office と連携できるのは、X-point サーバー内の 1 ドメインのみとなります。2 つ以上のドメインとは連携できませんので、連携設定時に Office と連携するドメインを決定しておく必要があります。また、一つの X-point サーバーが連携できる Office も一つだけになります。

必ず同期すべきユーザー情報

Office の「ログイン名」と X-point の「ログイン ID」を同一にします。

ユーザ情報を CSV 経由で同期させる為に、Office の「ユーザー ID」と X-point の「ユーザコード」が同じである必要があります。

(※) Office の「ユーザー ID」はユーザー情報を CSV ファイルに出力した際のみ確認できます。

Office へのアクセス URL

X-point と連携する場合、利用者がアクセスする Office の URL は、IP アドレスか完全修飾ドメイン名かいずれか 1 つに決定する必要があります。以下の xxx.xxx.xxx.xxx 部分を IP アドレスか完全修飾ドメイン名 (FQDN) にします。

http://xxx.xxx.xxx.xxx/cgi-bin/cbag/ag.cgi

(※) 指定された URL 以外から Office にアクセスすると X-point へのシングルサインオンができません。

(※) 完全修飾ドメイン名の場合、アプリケーションサーバー側で IP アドレスからの FQDN への変換を禁止していると正常に動作しない場合があります。

ユーザー情報の同期について

Office から書き出した CSV ファイルを X-point へインポートすることでシングルサインオンに必要な情報を X-point 側へ用意します。

【X-point へのインポートで同期できるデータ】

- ・ グループ
- ・ ユーザー

X-point 側にパスワードは不要です

Office からの CSV 書き出し時にパスワードは“*”で出力される為、X-point へインポートすると X-point 側ユーザーのパスワードは“*”になります。

Office とシングルサインオンする為には、Office の「ログイン名」と X-point の「ログイン ID」が同じである必要がありますが、パスワードについては同期する必要はありません。

eFormMaker に接続するユーザーは所定の管理権限が必要です

Office からシングルサインオンする際は、パスワードによる認証は行いませんが、フォーム管理者が eFormMaker の【動作環境設定】から接続する際はパスワードに“*”を指定します。接続するユーザーが“フォーム管理”、“マスタ管理”の 2 つを持つ場合に接続が可能となります。

通知メールからの書類表示

X-point にログイン中のユーザに限り、通知メールから書類を表示することができます。

(X-point ポートレットの表示や、X-point にシングルサインオンすると X-point にログインした状態になります。)

システム日付を同期させる

X-point サーバーと Office サーバーでシステム日付が異なると、連携に失敗する場合があります。そのため、Office サーバーの時間を X-point サーバーに同期させる

必要があります。

1.3. X-point ポートレットについて

Office に追加される X-point ポートレットは以下の 5 種類です。

▼ 「提出」 ポートレット



書類新規作成用ポートレットです。

ここからフォームを選択して X-point のフォームを開き、書類作成を行います。

▼ 「承認」 ポートレット

件名	書類	提出者	日付
稟議書	稟議書	加藤 美咲	2012/11/08 16:27:55
稟議書	稟議書	加藤 美咲	2012/11/08 16:27:53
稟議書	稟議書	加藤 美咲	2012/11/08 16:27:49
稟議書	稟議書	加藤 美咲	2012/11/08 16:27:47
稟議書	稟議書	加藤 美咲	2012/11/08 16:27:45

書類の状況別件数を確認するポートレットです。

承認待ち件数等が確認できます。

件数のリンクをクリックすると X-point の【承認】画面へ遷移します。

- ※ ポートレット表示直後の書類件数は全て 0 件で表示されます。表示後、暫くすると件数が表示されます。
- ※ 「更新」ボタンを押すことで、直ちに件数を更新することができますが、10 秒以内に件数が更新されている場合は再取得されず件数の表示は変化しません。

▼ 「検索」 ポートレット



書類を検索する為のポートレットです。

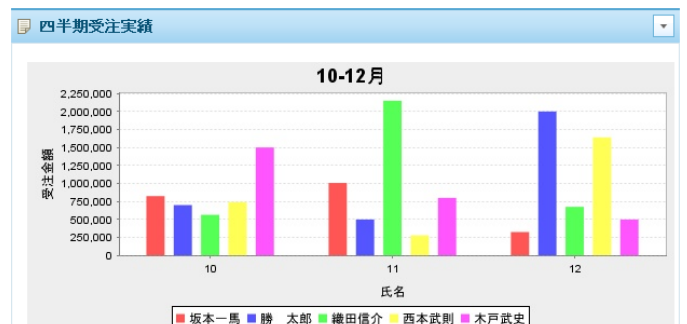
検索条件を入れて【検索する】ボタンをクリックすると X-point の【検索】検索結果画面へ遷移します。

▼ 「ブックマーク」 ポートレット



X-point で登録したブックマークの一覧が表示されるポートレットです。

▼ 「グラフ」 ポートレット



X-point で作成したクエリの集計結果をグラフ表示できるポートレットです。

1.3.1. サードパーティーCookie が利用できない場合の動作

サードパーティーCookie が利用できない設定であるブラウザではポートを表示する事ができません。

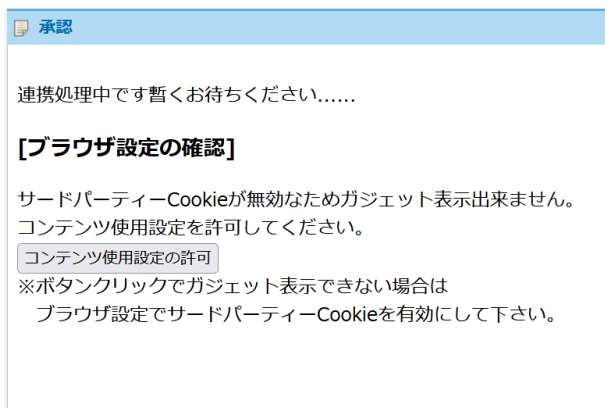
但し、Chrome/Edge/Firefox ブラウザで Storage Access API が利用できる場合は、ブラウザ操作者がコンテンツ使用を許可する事で本機能のポートレットを利用する事が可能になります。

コンテンツ使用の許可はポートを表示する一連の動作に組み込まれています。

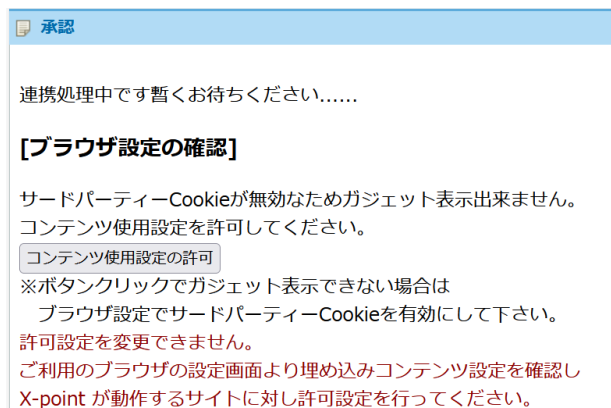
【許可動作の流れ】

1. Office・ガールーンから X-point のポートレット表示機能呼び出す
2. サードパーティーCookie の利用が許可されている ⇒ ポートレットを表示して終了
3. Storage Access API の利用が許可されている ⇒ ポートレットを表示して終了
4. ポートレット位置に「コンテンツ使用設定の許可」ダイアログが表示される
5. ユーザが「コンテンツ使用設定の許可」をクリックする（必ず“人”が操作します）
6. ブラウザ設定で Storage Access API の許可操作が許されている ⇒ ポートレットを表示して終了
7. ブラウザ設定が Storage Access API の許可操作を許していない ⇒ ポートレットの表示は出来ません

【「コンテンツ使用設定の許可」ダイアログ】



【Storage Access API の許可操作が許可されていない】



Storage Access API の利用が許可されるとポートレットが表示されるようになります。

複数のポートレットを表示する画面の場合は、一つのポートレットで許可を行うと他のポートレットも自動的に許可されます。

※ 自動で許可されない場合は、画面全体を再表示してください。

表示が許可された場合は 30 日以内に再利用する限り継続してポートレットが表示され表示の度に延長されます。30 日以内の利用が無い場合は再度コンテンツ使用の許可を求める表示が行われます。

第2章. 導入編 (サイボウズ Officeの設定)

2.1. 連携モジュール・ファイルを確認する

! 注意事項

・本章は「オープン統合認証 Ver. 2」の利用、Office が動作する Web サーバー内にファイルが配置できる事が前提になります。

連携モジュールの確認

あらかじめサポートサイトから Office 連携に必要なモジュールを入手し、以下のファイルが同梱されているか確認します。

```
(連携モジュール展開ディレクトリ)
├─ lib
│  └─ plusx
│     └─ office
│        ├── xpag
│        │   :
│        └─ xpoint
│           :
│           └─ office10xx
│              ├── sso
│              │   ├── readme.txt
│              │   └─ XpointSSO.html
│              └─ page
│                 ├── SystemGroupExport.html
│                 ├── SystemUserExport.html
│                 ├── TemplateCSVExport.html
│                 └─ XpointTemplateCSVExport.html
```

※readme.txt を除き文字コードが UTF-8 です。

Office 連携設定には、lib/plusx/office/OfficeNNNN フォルダ内を利用します。各フォルダ内の説明は以下の通りです。

フォルダ	フォルダ内のファイル説明
officeNNNN/sso	連携モジュール及び、XpointSSO.html の使用許諾ファイルが格納されています。
officeNNNN/page	Office に X-point 用のユーザー、グループ吐き出しを追加する際に利用するファイルです。 ※各ディレクトリの数値部は対応バージョンを示しています。 詳細は、「連携モジュールの配置と設定」を参照。

※ Office のバージョンによりファイル数が異なる場合があります。

2.2. 連携モジュールの配置と設定 (Apache で動作する Office サーバーの設定)

SSO 連携/CSV 書き出しファイルの配置

Office が稼動している Web サーバー上の「(サイボウズ Office のインストールディレクトリ)/cb5」に、連携モジュール内の以下のディレクトリを上書きコピーします。

【バージョンが「10.8.0」以降の場合】

(連携モジュール展開ディレクトリ) /lib/plusx
/office/**office1080**/page

【バージョンが「10.2.0」～「10.7.0」の場合】

(連携モジュール展開ディレクトリ) /lib/plusx
/office/**office1020**/page

【バージョンが「10.1.0」、「10.1.2」の場合】

(連携モジュール展開ディレクトリ) /lib/plusx
/office/**office1010**/page

【バージョンが「10.0.0」の場合】

(連携モジュール展開ディレクトリ) /lib/plusx
/office/**office1000**/page

▼Office 10、Windows の場合のディレクトリ構成例

```
C:\cybozu\office\cbag\cb5
└─ page
   └─ SystemGroupExport.html
   └─ SystemUserExport.html
   └─ TemplateCSVExport.html
```

※ Office 9.3.x 以前をアップグレードし使い続けている環境では、「Office 9.3.x 迄、Apache の場合のディレクトリ構成例」と同じパスになります。

▼Office 10、Linux の場合のディレクトリ構成例

```
/var/local/cybozu/office/cbag/cb5
└─ page
   └─ SystemGroupExport.html
   └─ SystemUserExport.html
   └─ TemplateCSVExport.html
```

※ Office 9.3.x 以前をアップグレードし使い続けている環境では、「Office 9.3.x 迄、Apache の場合のディレクトリ構成例」と同じパスになります。

▼Office 9.3.x 迄の Apache のディレクトリ構成例

```
(Apache インストールディレクトリ)/cgi-
bin/cbag/cb5
└─ page
   └─ SystemGroupExport.html
   └─ SystemUserExport.html
   └─ TemplateCSVExport.html
```

※ 同名ディレクトリへの上書きコピーとなります。

Office のバージョンによりファイル数・内容が異なる場合があります。

SSO 連携ファイル(XpointSSO.html)の編集

XpointSSO.html に連携先となる X-point のサーバー情報を指定します。

XpointSSO.html は以下に格納されていますので、同フォルダ内にある readme.txt も併せてお読みください。

【バージョンが「10.8.0」以降の場合】

(連携モジュール展開ディレクトリ) /lib/plusx
/office/**office1080**/sso

【バージョンが「10.2.0」～「10.7.0」の場合】

(連携モジュール展開ディレクトリ) /lib/plusx
/office/**office1020**/sso

【バージョンが「10.1.0」、「10.1.2」の場合】

(連携モジュール展開ディレクトリ) /lib/plusx
/office/**office1010**/sso

【バージョンが「10.0.0」の場合】

(連携モジュール展開ディレクトリ) /lib/plusx
/office/**office1000**/sso

▼ Office 10、Windows OS の XpointSSO.html 配置例

```
C:\cybozu\office\cbag\cb5
└─ page
   └─ XpointSSO.html
```

※Office 9.3.x 以前をアップグレードし使い続けている環境では、「Office 9.3.x 迄、XpointSSO.html 配置例」と同じパスになります。

▼ Office 10、Linux OS の XpointSSO.html 配置例

```
/var/local/cybozu/office/cbag/cb5
└─ page
   └─ XpointSSO.html
```

※ Office 9.3.x 以前をアップグレードし使い続けている環境では、「Office 9.3.x 迄、XpointSSO.html 配置例」と同じパスになります。

▼Office 9.3.x 迄の XpointSSO.html 配置例

```
(Apache インストールディレクトリ)/cgi-
bin/cbag/cb5
└─ page
```

※ 上記は構成例となります。

実際の構成に合わせて読み替えてください。

XpointSSO.html ファイルをエディタで開き、修正の対象となる項目 (3箇所) を見つけ、連携させる環境に合わせて項目を編集します。

▼XpointSSO.html の編集 (赤太字部分を修正します)

```
'$xpointURL = "http://(X-point 側 IP かホスト名)/xpoint  
/loginSSOPort.do"  
'$remotexpointURL = "https://remote2.cyazu.co.jp/xpoint  
/loginSSOPort.do"  
'$domCd= "(X-point ドメインのコード)"
```

- ※ 上記は構成例となります。実際の構成に合わせて読み替えてください。
- ※ "\$xpointURL"にセットする URL のプロトコルは、ご利用中の X-point に合わせ、http か https のいずれかを指定します。
- ※ "\$remotexpointURL" は変更する必要はありません。

！注意事項

- ・ Apache のインストールディレクトリは Office のインストール時に指定します。指定パスに関する詳細は Office のインストール手順をご確認ください。
- ・ ASP サービス等で Office をご利用の場合「CSV 書き出し用ファイル」の設置場所は、ASP サービス提供事業者の指定に従って下さい。ご利用中の ASP サービスによっては「CSV 書き出し用ファイル」の設置ができない場合があります。ファイルの設置ができない場合はユーザー情報、組織情報を CSV 出力する際の項目指定を CSV 出力用ファイルを設置していない場合に従って行うようにしてください。

2.3. 連携モジュールの配置と設定 (IIS で動作する Office サーバーの設定)

SSO 連携/CSV 書き出しファイルの配置

Office が稼動している Web サーバー上の「(サイボウズ Office のインストールディレクトリ)/cb5」に、連携モジュール内の以下のディレクトリを上書きコピーします。

- 【バージョンが「10.8.0」以降の場合】
(連携モジュール展開ディレクトリ) /lib/plusx /office/**office1080**/page
- 【バージョンが「10.2.0」～「10.7.0」の場合】
(連携モジュール展開ディレクトリ) /lib/plusx /office/**office1020**/page
- 【バージョンが「10.1.0」、「10.1.2」の場合】
(連携モジュール展開ディレクトリ) /lib/plusx /office/**office1010**/page
- 【バージョンが「10.0.0」の場合】
(連携モジュール展開ディレクトリ) /lib/plusx /office/**office1000**/page

▼Office 10、Windows の場合のディレクトリ構成例

```
C:\cybozu\office\cbag\cb5
└─ page
   └─ SystemGroupExport.html
   └─ SystemUserExport.html
   └─ TemplateCSVExport.html
```

※Office 9.3.x 以前をアップグレードし使い続けている環境では、「Office 9.3.x 迄、IIS の場合のディレクトリ構成例」と同じパスになります。

▼ Office 9.3.x 迄、IIS のディレクトリ構成例

```
(C:\inetpub)\scripts\cbag\cb5
└─ page
   └─ SystemGroupExport.html
   └─ SystemUserExport.html
   └─ TemplateCSVExport.html
```

※ 同名ディレクトリへの上書きコピーとなります。内3ファイルは既に同一名のファイルが存在しますが、上書きします。

SSO 連携ファイル(XpointSSO.html)の編集

XpointSSO.html に連携先となる X-point のサーバー情報を指定します。XpointSSO.html は連携モジュールダウンロードファイル内に格納されていますので、同フォルダ内にある readme.txt も併せてお読みください。

- 【バージョンが「10.8.0」以降の場合】
(連携モジュール展開ディレクトリ) /lib/plusx /office/**office1080**/sso
- 【バージョンが「10.2.0」～「10.7.0」の場合】
(連携モジュール展開ディレクトリ) /lib/plusx /office/**office1020**/sso
- 【バージョンが「10.1.0」、「10.1.2」の場合】
(連携モジュール展開ディレクトリ) /lib/plusx /office/**office1010**/sso
- 【バージョンが「10.0.0」の場合】
(連携モジュール展開ディレクトリ) /lib/plusx /office/**office1000**/sso

▼Office 10、Windows OS の XpointSSO.html 配置例

```
C:\cybozu\office\cbag\cb5
└─ page
   └─ XpointSSO.html
```

※Office 9.3.x 以前をアップグレードし使い続けている環境では「Office 9.3.x 迄の XpointSSO.html 配置例」と同じパスになります。

▼Office 9.3.x 迄の XpointSSO.html 配置例

```
(C:\inetpub)\scripts\cbag\cb5
└─ page
   └─ XpointSSO.html
```

※ 上記は構成例となります。実際の構成に合わせて読み替えてください。

XpointSSO.html ファイルをエディタで開き、修正の対象となる項目（3箇所）を見つけ、連携させる環境に合わせて項目を編集します。

▼XpointSSO.html の編集 (赤太字部分を修正します)

```
' $xpointURL = "http://(X-point 側 IP かホスト名)/xpoint  
/loginSSOPort.do"  
' $remotexpointURL = "https://remote2.cybozu.co.jp/xpoint  
/loginSSOPort.do"  
' $ domCd = "(X-point ドメインのコード)"
```

※ 上記は構成例となります。実際の構成に合わせて読み替えてください。

※ “\$remotexpointURL” は変更する必要はありません。

！注意事項

- ・ IIS のインストールディレクトリは **Office** のインストール時に指定します。指定パスに関する詳細は **Office** のインストール手順をご確認ください。
- ・ **ASP** サービス等で **Office** をご利用の場合「**CSV** 書き出し用ファイル」の設置場所は、**ASP** サービス提供事業者の指定に従って下さい。ご利用中の **ASP** サービスによっては「**CSV** 書き出し用ファイル」の設置ができない場合があります。ファイルの設置ができない場合はユーザー情報、組織情報を **CSV** 出力する際の項目指定を **CSV** 出力用ファイルを設置していない場合に従って行うようにしてください。

2.4. 連携設定を行う（Office システム管理画面の設定）

認証方法は「オープン統合認証 Ver.2」を使用します。設定は、【システム設定】→【+】詳細設定を開く（又は【詳細設定】タブ）→【運用管理】→【連携認証】画面に遷移し、「連携認証」の設定内容を確認・設定します。

連携認証の設定 (必須項目です。)

有効 連携認証を有効にする

モード オープン統合認証 ver.2
 サイボウズ共通認証

Cookie名
※「オープン統合認証 ver.2」選択時のみ設定してください。

認証パスワード

認証パスワード (確認用)

有効時間

発行ドメイン

項目名	設定値
有効	チェックする。
モード	「オープン統合認証 Ver.2」を指定
Cookie名	CB_OPENAUTH
認証パスワード	連携用パスワードを指定します。
認証パスワード(確認用)	認証パスワードと同じ指定をします。
有効時間	X-point 側では利用しません。 ※通常 1 時間を指定します。
発行ドメイン	日本語 URL は X-point が未対応です。 日本語 URL は指定しないで下さい。 ※空欄でも動作可能

! 注意事項

- ※ 「オープン統合認証 ver.2」を利用する場合は、Office 登録ユーザは“ログイン名”の指定が必須です。
- ※ X-point との連携で「サイボウズ共通認証」を利用することはできません。
- ※ X-point の「サイボウズ Office 連携」では、Office に設定した連携パスワード、発行ドメインと同じ内容を指定してください。

2.5. X-point メニューを追加する

Office に X-point のメニューを追加する設定について説明します。

アプリケーションメニューの追加

設定は【システム設定】→【+】詳細設定を開く（又は【詳細設定】タブ）→【カスタマイズ】→【アプリケーションメニュー】→【追加する】画面へ遷移し、以下の情報を入力してアプリケーションメニューに X-point メニューを【追加する】ボタンをクリックします。

▼アプリケーションメニューの追加画面

項目名	設定値
種類	任意のホームページへのリンク
タイトル	X-point
URL	<ul style="list-style-type: none"> ■ Apache (windows) /cgi-bin/cbag/ag.exe?page=XpointSS0 ■ Apache (Linux) /cgi-bin/cbag/ag.cgi?page=XpointSS0 ■ IIS (windows) /scripts/cbag/ag.exe?page=XpointSS0
アイコンの URL	http://[X-point への FQDN 又は IP]/xpoint/img/plusx/cybozu/office/wkfl32.gif もしくは、 https://[X-point への FQDN 又は IP]/xpoint/img/plusx/cybozu/office/wkfl32.gif
アイコンのファイル	(空欄のまま)

！注意事項

- 導入環境によっては URL の“cgi-bin”、“scripts”の部分が違う場合があります。Office を利用する際に指定するブラウザアドレスを確認し、cgi パスに何が使われているかを確認し合わせるようにしてください。
- Office をインストールしたサーバーに https プロトコルを利用して接続する場合、アイコンの URL には https で始まる URL を指定する必要があります。

2. 6. X-point ポートレットを追加する

Office に X-point のポートレットを追加する設定方法について説明します。

パーツの追加

設定は【システム設定】→【+】詳細設定を開く（又は【詳細設定】タブ）→【カスタマイズ】→【トップページの（最初の）レイアウト】→表示させたい段の【追加する】より「パーツの追加」画面へ遷移し、パーツの種類より「（任意の URL）」を選択して【追加する】ボタンをクリックします。

▼パーツの追加画面

【追加する】を選ぶ



【（任意の URL）】を選ぶ

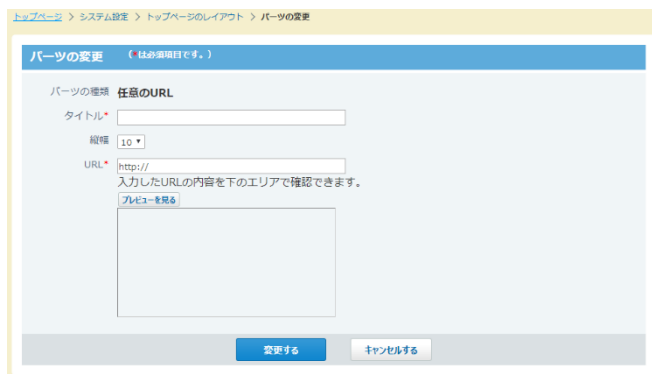


⇒

追加された項目の【変更する】を選ぶ



ポートレットの設定を行う



！ 注意事項

初めてトップページのレイアウト画面を開いた場合は、初期設定画面が表示されますので「設定する」をクリックして下さい。

ポータル設定の変更

追加した段の「(任意の URL)」のリンクより設定画面に遷移します。以下の情報を入力して【変更する】ボタンをクリックします。

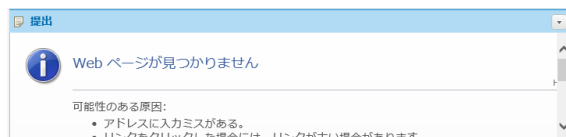
項目名	設定値
パーツ名	提出
パーツの高さ	10～20 程度
URL	<ul style="list-style-type: none"> ■Apache (windows) /cgi-bin/cbag/ag.exe?page=XpointSSO&Forward=formLibrary ■Apache (Linux) /cgi-bin/cbag/ag.cgi?page=XpointSSO&Forward=formLibrary ■IIS (windows) /scripts/cbag/ag.exe?page=XpointSSO&Forward=formLibrary

！注意事項

- 導入環境によっては URL の“cgi-bin”、“scripts”の部分が違う場合があります。Office を利用する際に指定するブラウザアドレスを確認し、cgi パスに何が使われているかを確認し合わせるようにしてください。
- 設定後「プレビューを見る」ボタンをクリックしても動作しません。実際のトップページで設定結果を確認してください。

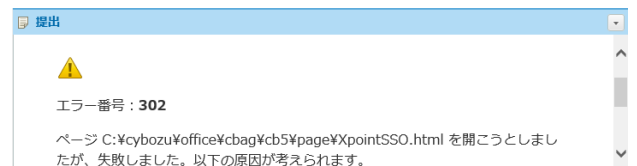
本マニュアルの連携設定が完了し、X-point サーバーが動作している状態で「ページが表示されません」などが表示された場合、連携設定ファイル (XpointSSO.html) の内容に誤りがある可能性があります。

■XpointSSO.html の内容設定に誤りがある場合



⇒ページが見つかりません等がでる。

■連携モジュールが未配置の場合



⇒エラー番号「302 : ページ…を開こうと。。。」がでる。

同様の手順で「検索」、「承認」、「ブックマーク」、「グラフ」のポータルを設定します。

▼検索

項目名	設定値
パーツ名	検索
パーツの高さ	15～20 程度
URL	/cgi-bin/cbag/ag.exe?page=XpointSSO&Forward=finder

▼承認

項目名	設定値
パーツ名	承認
パーツの高さ	20～35 程度
URL	/cgi-bin/cbag/ag.exe?page=XpointSSO&Forward=wkfl

▼ブックマーク

項目名	設定値
パーツ名	ブックマーク
パーツの高さ	5～15 程度
URL	/cgi-bin/cbag/ag.exe?page=XpointSSO&Forward=bookmark

▼グラフ

項目名	設定値
パーツ名	(任意の名称)
パーツの高さ	表示するサイズに応じて調整します。
URL	/cgi-bin/cbag/ag.exe?page=XpointSSO&Forward=queryChart- {クエリコー

 **ド}**

※各ポートレットの URL は、Apache (Windows) を使った場合の例です。“/cgi-bin/cbag/ag.exe” の部分は実際に利用する

環境に合わせて下さい。

<グラフポートレットのクエリコードについて>

表示させたいグラフの「クエリコード」を指定します。「クエリコード」は X-point のクエリ管理から確認します。

【クエリ管理/クエリプロパティ画面】

基本情報	
クエリコード ※	query12
クエリ名 ※	残業時間集計
クエリ種別 ※	クロス集計
フォーム ※	残業報告書
表定義 ※	使用しない
開始行マークの指定	使用しない
CSVファイル名	query.csv
CSVファイルのヘッダ表示	表示する
グラフ	> グラフ設定

※グラフ表示を「しない」設定になっている場合、Office のポートレットにグラフを表示することはできません。

※対象となるクエリの実行権限があるユーザにのみグラフが表示されます。

⇒クエリ・グラフ設定の修正については、X-point 管理者機能マニュアル「クエリ管理」の項をご参照ください。

<グラフポートレットを複数追加するには>

URL に異なるクエリコードを設定して複数のグラフポートレットを追加することができます。

！ 注意事項

大量の書類に対して検索するような処理の重いクエリのグラフポートレットを複数登録した場合、X-point の処理の実行に必要なメモリ量が増加し、パフォーマンスの低下を招く可能性があります。

既にログインを行なったことがあるユーザーは、システム設定で「トップページのカスタマイズ」を実施しても反映されません。個人設定（詳細）より「トップページと画面」の「トップページ」をクリックし、「トップページのカスタマイズ」を開き“表示部分を初期化する”（Office の旧バージョンでは“初期状態へリセットする”）を実行するか、個々にポートレットの追加作業を行なう必要があります。

第3章. 導入編 (X-pointの設定)

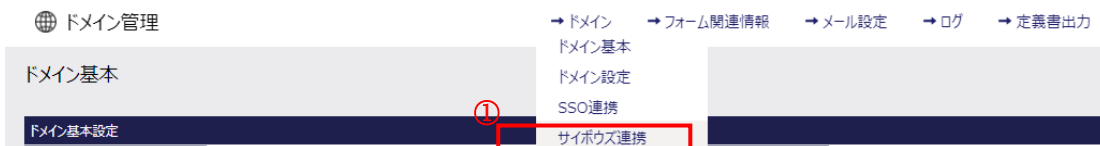
3.1. ライセンス適用

既に稼働している X-point に対して連携設定を行う場合は、Office 連携用ライセンス (サイボウズ Office 連携サービス) を追加適用する必要があります。ライセンスの発行については各代理店等にお問い合わせ下さい。

3.2. サイボウズ連携設定

「サイボウズ Office 連携サービス」オプション付きのライセンスが適用されると、ドメイン管理画面のメニューに「サイボウズ連携設定」メニューが表示されるようになります。X-point 側の設定はこの画面から行います。

X-point 側での連携設定は「ドメイン管理」メニューより「サイボウズ連携」を選び画面を表示します。



設定画面で【設定変更】をクリックします。



※ ライセンスの状態により表示される画面の構成が異なります。「+X サイボウズ Office 連携」を操作します。

ドメイン管理 → ドメイン → フォーム関連情報 → メール設定 → ログ → 定義書出力

サイボウズ連携設定
サイボウズ Office連携

項目	設定値	備考
プロトコル	https	OfficeのURLスキーム
ホストアドレス	office.example.com	OfficeのIPまたはホスト名
ポート番号		Officeのポート番号 ※省略時は80番ポート
ログインURL	/cgi-bin/cbag/ag.exe?page=AGIndex	Officeログイン画面のURL
ログアウトURL	/cgi-bin/cbag/ag.exe?_System=Login&Logout=logout	Officeログアウト画面のURL
統合認証 Ver.2	設定	<input type="radio"/> 使用しない <input checked="" type="radio"/> 使用する ← 必ず「使用する」を選択します
	パスワード	***** ※省略時はxpoint
	Cookie名	CB_OPENAUTH
	発行ドメイン名(FQDN)	example.com ※日本語URLは登録できません
	発行パス	/
有効時間(秒)	21600	

※ 統合認証の設定内容は、Officeのオープン統合認証の設定で指定した内容を指定します。
※「Cookie名」は変更しないでください。連携先の設定内容に関係なく固定です。

画面の説明に従い連携に必要なパラメータを設定します。

【Office ログイン画面 URL、ログアウト画面 URL の指定例】

Office の稼動環境	項目	URL の例
Windows + Apache	ログイン URL	/cgi-bin/cbag/ag.exe?page=AGIndex
	ログアウト URL	/cgi-bin/cbag/ag.exe?_System=Login&Logout=logout
Linux + Apache	ログイン URL	/cgi-bin/cbag/ag.cgi?page=AGIndex
	ログアウト URL	/cgi-bin/cbag/ag.cgi?_System=Login&Logout=logout
Windows + IIS 6.0/7.0	ログイン URL	/scripts/cbag/ag.exe?page=AGIndex
	ログアウト URL	/scripts/cbag/ag.exe?_System=Login&Logout=logout

！ 注意事項

- ※ 「ホストアドレス」の指定に基づき、X-point 上に表示される Office へのリンク URL が生成されます。Office へのアクセス URL に使用する IP アドレス、又は完全修飾ドメイン名(FQDN)を指定して下さい。
- ※ 「統合認証 Ver2」の「設定：使用しない／使用する」項目は、通常「使用する」を選択します。

第4章. ユーザー情報メンテナンス編

4. 1. Office からユーザーCSV 書き出しを行う

この章では X-point へインポートする為の Office ユーザーCSV ファイル書き出し方法について説明します。

CSV 出力テンプレート (SystemGroupExport.html、SystemUserExport.html、TemplateCSVExport.html) を X-point 用で上書きした場合としなかった場合で方法が異なります。

4. 1. 1. CSV 出力用ファイルを配置した場合

システム管理者権限を持つユーザーでログイン後、【システム設定】→(【基本設定】タブ)→【ユーザー】→【CSV ファイルへ書き出す】より「ユーザー情報の CSV ファイルへの書き出し- Step 1/2」画面へ遷移し、【X-point 用の順序を適用する】ボタンをクリックします。

▼ 【ユーザー情報の CSV ファイルへの書き出し- Step 1/2】画面

※ パスワードの値はすべて「*」と出力されます。
書き出したCSVファイルを読み込むときに、パスワード欄が「*」であれば、パスワードは変更しません。
「*」以外であれば、その値にパスワードを変更します。

※ パスワードの値はすべて「*」と出力されます。
書き出したCSVファイルを読み込むときに、パスワード欄が「*」であれば、パスワードは変更しません。
「*」以外であれば、その値にパスワードを変更します。

中央の「書き出す項目」に X-point 用の順序データが設定されているのを確認後、【次に、書き出す内容を確認する >>】ボタン

をクリックして「ユーザー情報の CSV ファイルへの書き出し- Step 2/2」画面へ遷移します。

内容を確認後、【書き出す】ボタンをクリックして CSV ファイルをダウンロードします。

4.1.2. CSV 出力用ファイルを配置していない場合

CSV 出力用ファイルを配置していない場合、本項目内の『【X-point 用の順序を適用する】ボタン』は表示されません。書き出す項目として個々の項目を指定する必要があります。

順序： ユーザーID、ログイン名、パスワード、名前、よみ、E-Mail、（空）

▼ 【ユーザー情報の CSV ファイルへの書き出し- Step 2/2】画面

トップページ > システム設定 > ユーザーの設定 > CSVファイルへの書き出し (ユーザー)

CSVファイルへの書き出し (ユーザー) - Step 2/2

ユーザー情報をCSVファイルに書き出します。

CSVファイルの中身は、次のようになります。

```
"ユーザーID","ログイン名","パスワード","名前","よみ","E-mail"
"16","高橋 健太"
"21","和田 一夫","わた かずお"
"24","加藤 美咲","かとう みさき"
"27","大山 春香","おおやま はるか"
...
```

<< 前の画面へ戻る **書き出す** キャンセルする

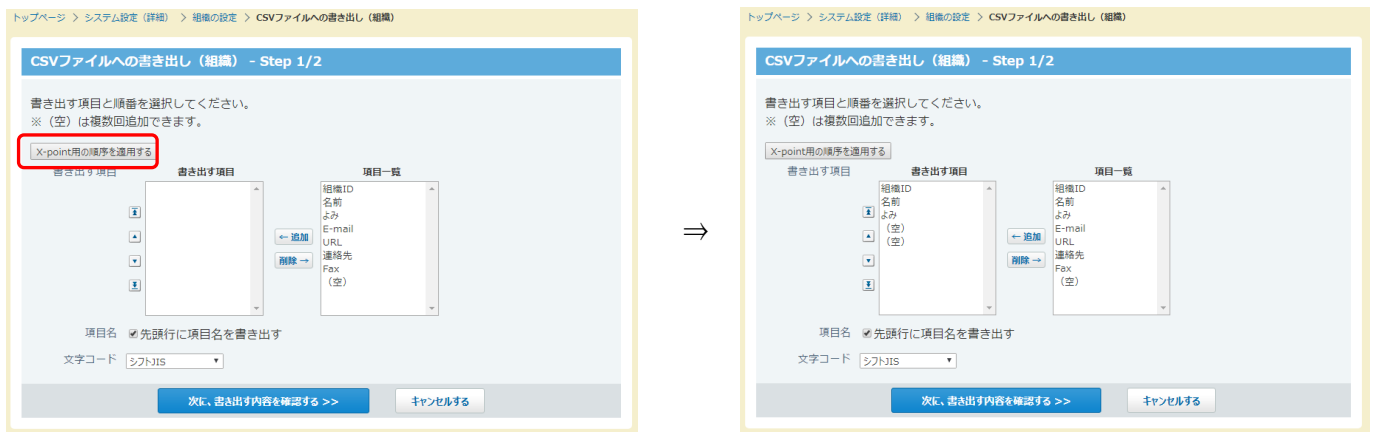
4. 2. Office からグループ CSV 書き出しを行う

この章では X-point へインポートする為の Office グループ CSV ファイル書き出し方法について説明します。
CSV 出力テンプレート (SystemGroupExport.html、SystemUserExport.html、TemplateCSVExport.html) を X-point 用で上書きした場合としなかった場合で方法が異なります。

4. 2. 1. CSV 出力用ファイルを配置した場合

システム管理者権限を持つユーザーでログイン後、【システム設定】→(【基本設定】タブ)→【組織】→【CSV ファイルへ書き出す】より「CSV ファイルへの書き出し (組織) - Step 1/2」画面へ遷移し、【X-point 用の順序を適用する】ボタンをクリックします。

▼ 【CSV ファイルへの書き出し (組織) - Step 1/2】画面



中央の「書き出す項目」に X-point 用の順序データが設定されているのを確認後、【次に、書き出す内容を確認する >>】ボタン

をクリックして「CSV ファイルへの書き出し (組織) - Step 2/2」画面へ遷移します。

内容を確認後、【書き出す】ボタンをクリックして CSV ファイルをダウンロードします。

4.2.2. CSV 出力用ファイルを配置していない場合

CSV 出力用ファイルを配置していない場合、本項目内の『【X-point 用の順序を適用する】ボタン』は表示されません。
書き出す項目として個々の項目を指定する必要があります。

順序： 組織 ID、名前、よみ、（空）、（空）

▼ 【CSV ファイルへの書き出し（組織） - Step 2/2】画面

トップページ > システム設定 > 組織の設定 > CSVファイルへの書き出し（組織）

CSVファイルへの書き出し（組織） - Step 2/2

組織情報をCSVファイルに書き出します。

CSVファイルの中身は、次のようになります。

```
"組織ID","名前","よみ",""  
"12","総務部","", "  
"14","部長","", "  
"18","営業部","", "  
..."
```

<< 前の画面へ戻る **書き出す** キャンセルする

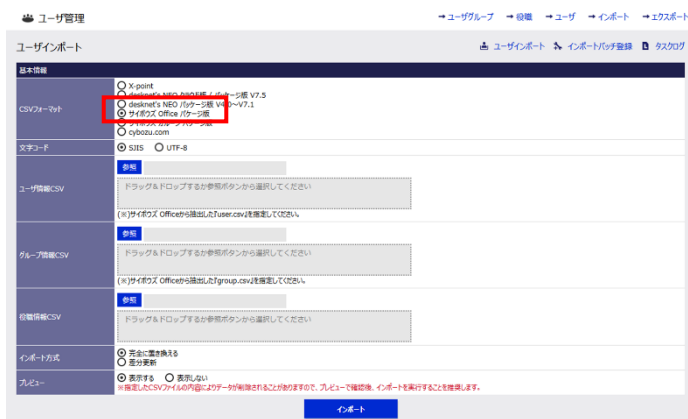
4.3. X-point へユーザーおよびグループ CSV をインポートする

この章では前ページで書き出した Office ユーザー CSV ファイル(user.csv)およびグループ CSV ファイル(group.csv)を、X-point にインポートする方法について説明します。

X-point 管理者画面へログインする

X-point 管理者サイトにログインし、【ユーザー管理】→【インポート】画面へ遷移します。CSV フォーマットの「サイボウズ Office」を選択すると、Office 用インポート画面に遷移します。

▼【ユーザー管理】→【インポート】



【参照...】 ボタンをクリックして、Office で書き出した user.csv ファイルを“ユーザー情報 CSV”欄に、group.csv ファイルを”グループ情報 CSV”欄に指定します。

“役職情報 CSV”欄は空欄のまま構いません。

▼画面内の設定内容

項目名	設定値
CSV フォーマット	サイボウズ Office
文字コード	CSV ファイルの文字コード
ユーザー情報 CSV	ユーザー情報を格納した CSV (user.csv)
グループ情報 CSV	グループ情報を格納した CSV (group.csv)
役職情報 CSV	X-point 役職情報を格納した CSV
インポート方式	CSV のデータでユーザーやグループ等の情報を置き換える場合は「完全に置き換える」を選択する CSV のデータに該当するユーザーやグループ等のみ追加・更新する場合は「差分更新」を選択する
プレビュー	「表示する」を選択する

インポートエラーの場合

インポート処理が実行される前に、データのエラーチェック処理が行なわれます。指定した CSV ファイルの全データに 1 件でもエラーチェックに該当するデータが存在した場合、データの登録は行なわれずに元のインポート画面に戻ります。

エラーメッセージが表示された場合、CSV ファイルの確認と修正を行なった上で再度インポートを行ってください。

▼インポートエラーが発生した場合



インポート成功の場合

インポートが成功するとインポート結果画面が表示されます。

インポートログの出力設定を有効になっていると、インポートが完了したときにログファイルを作成され、インポート完了画面からログのダウンロードが可能です。

▼インポート結果画面



4.4. インポート時の注意事項

ここではインポート時の注意事項について説明します。

1) X-point 管理画面から直接追加・更新したユーザー情報について

Office 連携の場合、ユーザーの基本情報は全て Office 側で管理されるものとします。

そのため、X-point 管理画面から直接追加または更新したユーザー情報についてはインポート後にデータが変更される可能性があります。

- X-point 管理画面から追加された X-point 側にのみ存在するユーザー、前回のインポート後に Office で削除されたユーザーがいる場合、つまり Office 側には存在しない場合、インポート後それらのユーザーは削除されます。インポート情報の対比は、其々次の項目で行われます。

(1) 更新

ユーザー情報 CSV …… Office のユーザ ID と X-point のユーザコードが同一であるものを更新。

ログイン名 (X-point ではログイン ID) では対応しない事に注意して下さい。

グループ情報 CSV …… Office の組織 ID と X-point のユーザグループコードが同一であるものを更新。

(2) 新規

Office の CSV に含まれるユーザ ID と同じ内容のユーザコードを持つ X-point ユーザが存在しない場合に、新規追加されます。

(3) 削除

X-point のユーザコードが Office の CSV ファイルに含まれるユーザ ID に一致するものが無かったユーザ。

- Office 側と X-point 側で登録されている内容 (名前やメールアドレスなど) が異なっているユーザーがいる場合、インポート後には全て Office 側の情報によって上書きされます。

※上書きされる項目は「Office と X-point のユーザ情報マッピング」を参照

- X-point 側にのみ存在するユーザーを削除したくない場合は、インポート方式「差分更新」でインポートすることで X-point 側にのみ存在するユーザーを削除することなく Office 側の情報をインポートできます。

2) X-point の役職について

Office には存在せず、X-point にのみ存在するデータとして役職マスタ情報があります。

この役職マスタ情報はインポートによって書き換えられる事はありませんが、X-point 側でユーザーに対して役職所属情報を設定していた場合に、既に設定されている役職所属情報を維持するために特別な処理が行われます。この際に、役職マスタに登録されている役職の中で「役職コード」が空欄となっている役職については正しく役職所属情報が反映されません。インポートを実行する前に X-point の役職マスタに「役職コード」が空欄となっている役職が無いか確認してください。空欄の場合はインポート時にエラーとなります。なお、役職マスタ情報の CSV 指定は必須ではありません。

4.5. CSV ファイル仕様

ユーザー情報 CSV レイアウト (user.csv)				
項目名	型	必須	桁	特記事項
ユーザーID	文字	●	100	全角文字不可
ログイン名	文字	●	100	全角文字不可
パスワード	文字	●	16	全角文字不可
名前	文字	●	60	
よみ	文字		60	
E-mail	文字		120	

グループ情報 CSV レイアウト (group.csv)				
項目名	型	必須	桁	特記事項
組織 ID/グループ ID	文字	●	100	全角文字不可
名前	文字	●	120	
よみ	文字		120	

役職情報 CSV レイアウト (part.csv)				
項目名	型	必須	桁	特記事項
役職コード	文字	●	20	半角英数 20 文字以内、全角文字不可
役職名	文字		120	
カナ	文字		120	
備考	文字		1024	

※ 役職情報 CSV は Office からは出力されません。必要に応じ X-point へのインポート用に作成してください。
X-point と Office 間での情報連携を行う上で必須ではありません。

4.6. Office と X-point のユーザー情報マッピング

ユーザー情報			
Office 項目	X-point 項目	新規項目	更新項目
ユーザーID (*)	ユーザコード	○	—
ログイン名	ログイン ID (*)	○	○
パスワード	パスワード (*)	△	—
名前 (*)	氏名 (*)	○	○
よみ	カナ	○	○
E-mail	メールアドレス	○	○

- ※ Office ではユーザ ID がシステム内部情報で自動発番されます。
- ※ Office ではユーザ ID、名前以外の項目が必須項目ではありません。
- ※ (*)は、Office、X-point のユーザ追加画面で必須に指定されている項目です。CSV を作成する際には必ず指定します。
- ※ Office から出力する CSV では“パスワード”項目に必ず“*”が設定されます。“*”が指定されている場合、X-point はパスワード欄の更新を行いません。

組織情報			
Office 項目	X-point 項目	新規項目	更新項目
組織 ID	ユーザグループコード	○	—
名前 (*)	ユーザグループ名称 (*)	○	○
よみ	カナ	○	○

- ※ Office は名前以外の項目が必須ではありません。
- ※ (*)は、Office、X-point のユーザ追加画面で必須に指定されている項目です。CSV を作成する際には必ず指定します。

第5章. 動作確認編

5.1. 動作確認チェックリスト

サイボウズ Office 連携サービスの動作確認チェックリストを用意しますので、設定完了後は以下のチェックリストを必ず確認してください。

▼確認チェックリスト

チェック	チェック名	チェック内容
<input type="checkbox"/>	ユーザーインポート	Office のユーザー情報を X-point へインポートします。 正常にインポートされるか確認します。 もし、Office にユーザーが登録されていない場合は、テスト用グループやユーザーを登録してから実施します。
<input type="checkbox"/>	ポートレット表示	Office のトップページに、設定した X-point のポートレットが表示され、各ポートレットのボタンやリンクが動作することを確認します。
<input type="checkbox"/>	システム間遷移	アプリケーションメニューから X-point へ遷移可能か、X-point から Office への遷移が可能か確認します。 X-point から Office へ戻る際は、X-point ヘッダ部のメニューにある【サイボウズへ】リンクをクリックします。

第6章. Officeのアップデート

サイボウズ Office をアップデートする場合、アップデート前のチェック、アップデート後の追加作業を行って頂く必要があります。

本章は「X-point 連携モジュールを利用する方法」で導入した場合の説明となります。

6.1. アップデート前のチェック項目

現在導入している“Office 連携サービス”は、アップデート後の Office バージョンに対応しているか

利用中の“Office 連携サービス”がアップデート後のオフィスバージョンのマイナーバージョンも含めて完全に対応している必要があります。

特に、“Office 連携サービス”は、Office 製品のユーザー、グループの CSV 書き出し用ファイルの一部を変更して動作しています。そのため、未対応のバージョンを利用すると、変更部分に関連する箇所が正常に動作しなくなる場合があります。

ポートレット表示についても動作確認されていないバージョンについては、表示されなくなる可能性がありますので、対応情報を十分に確認してください。

アップデート後のバージョンに対応した“Office 連携サービス”は入手できているか

サイボウズ Office をアップデートした後に、CSV 書き出し用ファイルを Office に再適用する必要があります。そのため、アップデート作業を行う前に、アップデート後のオフィスバージョンに対応した“Office 連携サービス”を用意しておく必要があります。

6.2. アップデート後の作業

“Office 連携サービス”の“CSV 書き出し用ファイル”の再適用

導入編で行った「CSV 書き出し用ファイルの配置」をアップデート後の Office に対応したものに置き換える必要があります。アップデート前、アップデート後の適用ファイルが同じものであっても、Office のアップデートにより元の状態に戻ってしまっていますので、再適用する必要があります。

その他、Office のバージョンにより作業が発生する場合があります。

6.2.1. Office 9.1.0 迄から Office10.0 以降にアップデートする場合

サイボウズ Office 9.3 より連携モジュールを利用する際の設定方法が変更されました。Office 9.1.x 以前の環境を Office 10.0 にアップデートする場合は、連携モジュールの設定を本書の方法に合わせて再設定する必要があります。

6.2.2. 連携モジュールを利用する設定で Office 10.0.0 以降をアップデートする場合

サイボウズ Office 10.0 以降で“連携モジュールを利用する”タイプで連携を行っている場合、サイボウズ Office のアップデート後に必ず、サイボウズ Office 内の連携モジュール (XpointSSO.html) 、及びユーザ情報 CSV の出力設定ファイル

(SystemGroupExport.html, SystemUserExport.html, TemplateCSVExport.html, XpointTemplateCSVExport.html) を再導入して頂く必要があります。

アップデート前に使用したファイルは退避されていますので、連携設定モジュール内の設定情報は退避ファイルを参照して調べる事ができます。

1) Apache を利用している場合

(Apache インストールディレクトリ) /cgi-bin/cbag/cb5/page/backup/XpointSSO.html

2) IIS を利用している場合

(IIS インストールディレクトリ) /scripts/cbag/cb5/page/backup/XpointSSO.html

Office 製品のアップデート後の再設定を行わない場合、アプリケーションメニューからの X-point 利用、ポートレットの表示ができなくなります。

第7章. その他の注意事項

7. 1. X-point の個人設定

サイボウズ Office 製品と連携している場合、X-point の個人設定画面に“ユーザプロフィール設定”は表示されません。

■改訂履歴

改版	改版内容
2021年4月1日版	初版
2021年11月4日版	X-point v3 でサポートされない連携方法の説明を削除。
2022年3月14日版	マニュアルタイトル等の各部の名称を変更。
2022年8月26日版	Office 10.8.0以降で使用する連携モジュールの記載を追加 サイボウズ Office 対応 Web サーバーの記述に IIS 10.0, Apache 2.4 を追加。IIS 7.5/7.0/6.0 を削除
2024年11月18日版	サードパーティーCookie が利用できない場合の動作を追記
2025年10月6日版	「1.1.どんな機能が実現できるの？」 ・X-point ポートレットの注意事項を追加
2026年1月8日版	「4.3.X-point ユーザーおよびグループ CSV をインポートする」設定項目と説明を追加、キャプチャを差し替え 「4.4.インポート時の注意事項」差分更新について説明を追記
2026年4月8日版	X-point v3 でサポートされない連携方法の説明が一部残存していたため削除。